Art Insight Kagawa

「かぐや姫」練習 最終ステージ

キャストそろう 来月公演

演出の浜畑賢吉（中央）を迎えた練習＝21日、アルファあなぶきホールリハーサル室

県が12月末に高松市で開く本格的な市民参加オペラ「かぐや姫」のキャストがそろった。タイトルロールは注目の若手、徳井えりな（25）＝丸亀市＝に決まり、ほかにも県内を中心にした20～50代まで各世代の実力者が集まった。秋に指揮者や演出家を迎えた全体練習も始まり、本番に向けて準備は最終段階に入った。

キャストはオーディションを行い、徳井のほかに、帝役の前田昭和、翁役の秋山啓、嫗役の上野晃代ら計10人を選出。合唱は地元の合唱団や屋島小合唱部など約80人で編成し、管弦楽は高松交響楽団のメンバーら25人による高松オペラシティ室内管弦楽団が務める。

10月中旬に立ちげいこを始め、今月から指揮の平井秀明と演出の浜畑賢吉による全体練習も行っている。2度の練習に立ち会った浜畑は、「演出面ではほぼ仕上がった。あとはそれぞれがもっと練習し、本番は熱気と感動が伝わるステージにしたい」と話している。

「かぐや姫」は「竹取物語」を題材に、平井が作曲・台本を手掛けた話題作。これまで東京、プラハなどで演じられ、いずれも平井本人が指揮するスタイルを取っている。日本語での上演で、イタリアオペラの香りが感じられる美しいメロディーが評価を得ている。

公演は12月28日午後6時から高松市玉藻町のアルファあなぶきホール小ホールで開く。入場料は一般2000円ほか。問い合わせは同ホール、電話087（823）5023。

キャストは次の通り。

かぐや姫＝徳井えりな▽帝＝前田昭和（高松市）▽翁＝秋山啓（岡山市）▽嫗＝上野晃代（丸亀市）▽車持皇子＝越智慎悟（高松市）▽大納言＝牛野亮介（同）▽中納言・天の王＝林直樹（坂出市）▽公家＝増井泰弘（同）▽石作皇子＝大藪誠士（まんのう町）▽里の娘＝谷若奈（東京＝丸亀市出身）

日本語の響きを大切にしたい

タイトルロール ♪徳井えりな

東京、プラハ、キャンベラ、そして来夏は音楽都市ザルツブルク…。世界各国で上演され、今や日本のオペラの中でもとりわけ高い注目を集める「かぐや姫」。タイトルロールを担う重責をかみしめつつ、作品の魅力をあらためて感じている。

「ダイナミックな歌もあれば、童謡のような懐かしい優しい歌もある。いいなあって思う」。練習が始まって2カ月。指揮者や演出家の直接指導も受け、曲に対する解釈も深まった。和服姿での微妙な身のこなしも徐々にマスターしつつある。

「日本語の美しさを大切に歌いたい」と話す徳井えりな＝高松市中野町、四国新聞社

小学生の時に近くの児童合唱団に入り、高学年になって専門的に声楽を習い始めた。高松一高から東京芸大に進み、4月に丸亀市に帰郷。7月に開かれた、よんでん文化振興財団の「ふるさとコンサート」が地元での本格デビューになった。

明るく軽やかなリリコ・レジェロ。その声質と可憐（かれん）な容姿が関係者の目に留まり、今回の公演のオーディションを勧められた。10月にさぬき市の「かぐや姫カーニバル長尾」に出演し、優美な着物姿でのアリアで来場者の視線を一身に集めた。

翁（おきな）と嫗（おうな）に育てられ、貴公子たちに愛され、そして月へと帰ってゆく姫。悲しい運命と情味あふれる女性像を表すために、「何より日本語の響きを大切にしたい」。かぐや姫ゆかりの地でもある香川で、世界を泣かせる美しいメロディーを歌う。

◆とくい・えりな　高松一高、東京芸大卒。オペラ「フィガロの結婚」や「カルメン」に出演し、「第九」のソリストも務める。坂出高音楽科講師。四国二期会準会員。